

## 令和5年度外国人児童生徒等への日本語指導指導者養成研修 実施要項

## 1 目的

日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、学校教育法施行規則が改正され、日本語の能力に応じた特別の指導を行うための特別の教育課程を編成し、実施することが可能となった。学習指導要領において、「海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒の指導」の重要性が示されている。さらに、「出入国管理及び難民認定法」が平成30年に改定され、日本語指導が必要な児童生徒等が今後さらに増加することが予想される。このような実態を踏まえ、児童生徒等の実態に応じた適応指導・日本語指導を関係機関と連携し、受け入れ体制を整備するなど、組織的・計画的に学校全体で行うことを指導できる教職員の専門性を高めることが必要である。

本研修では、学習指導要領に基づいて、地方公共団体や学校全体での外国人児童生徒等の受け入れ体制の整備、関係機関との連携、特別の教育課程の編成や通級による指導を含めた日本語指導の方法について、必要な知識等を習得する。さらに本研修後の成果活用を通して、1) 外国人児童生徒等に対する教育の推進に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校や地域において研修を企画・実施し、学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力を習得した指導者の養成を図る。

2 主催 独立行政法人教職員支援機構、三重県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間 令和5年10月16日(月)～令和5年10月19日(木)

5 会場 三重県総合教育センター  
〒514-0007 三重県津市大谷町12番地 Tel. 059-226-3428

6 定員 100名(5ユニット)

## 7 受講者

## (1) 受講資格

本研修の内容を踏まえ、各学校や地域において研修を企画・実施する指導者として活動を行う者

- ① 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれに準じる者
- ② 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びに特別支援学校の校長、副校長及び教頭
- ③ 外国人児童生徒等への日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等
- ④ 教職員支援機構の修了証書をもって単位認定を行う(予定を含む)教職大学院の学生(教職経験のあるものに限る)

※「第4次男女共同参画基本計画」〔平成27年12月25日閣議決定〕を踏まえ、本研修における女性教職員の割合を25%以上とすることを、当機構として目指している。女性の積極的な推薦について御配慮願いたい。

(2) 推薦人数

推薦する場合、以下のとおりとする。

各都道府県教育委員会においては2名程度とする。各指定都市教育委員会、各中核市教育委員会、各都道府県知事部局、附属学校を置く各国公立大学、国立青少年教育振興機構等においては1名程度とする。

(3) 推薦手続

推薦期限は、令和5年8月31日(木)とする。

各機関(各都道府県・指定都市教育委員会、各都道府県知事部局、附属学校を置く各国公立大学、国立青少年教育振興機構、教職大学院を置く各大学)においては、推薦する受講者を取りまとめて、「研修システム」により推薦を行う。ただし、中核市教育委員会においては、[様式1]により都道府県教育委員会に連絡し、都道府県教育委員会が「研修システム」により推薦を行う。また、推薦がない場合であっても、担当者情報を登録すること。

※推薦者は、研修修了者に対し、研修成果を効果的に活用する機会(各学校や地域での研修等)を設けること。

(4) 受講者の決定

各都道府県・指定都市教育委員会等からの推薦に基づき、三重県教育委員会と教職員支援機構が協議の上決定し、通知する。定員を超過する場合は、受講者を調整する場合がある。複数名推薦する場合、候補者毎に推薦順位を入力すること。

8 研修内容

別紙1「日程表」のとおりとする。

9 事前課題

演習・協議用資料として、事前に課題(研修成果活用計画書を含む)を作成し、提出すること。なお、内容、提出期限、提出方法については、受講者決定時に別途連絡する。

10 その他

- (1) 所定の課程を修了した者には、修了証書を授与する。受講者推薦の際に、必ず受講者の氏名を確認し、正確に記入すること。
- (2) 宿泊が必要な場合の手配等については、各自で行う。研修に際し、特別な配慮が必要な者(障害、持病等)を推薦する場合には、事前に教職員支援機構に相談すること。
- (3) 推薦者は、研修修了者に対し、研修成果を効果的に活用する機会の提供、確保等の配慮をすること。

令和5年度 外国人児童生徒等への日本語指導指導者養成研修  
日程表

【1日目】

	9:15	10:00	10:30	11:10	11:20	12:45	13:45	15:45	16:00	17:00
10月16日(月)		受付	開講式・オリエンテーション	第1講 講義・協議 「外国人児童生徒等に対する教育の最新の動向」  文部科学省 総合教育政策局 国際教育課長 中野 理美  外国人児童生徒等への教育行政の最新動向について理解を深める。	休憩	第2講 講義・協議 「本研修の目的」  京都教育大学 教授 浜田 麻里  本研修の目的と内容について理解することで、研修に対する意欲の向上を図る。	昼食・休憩	第3講 講義・演習 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」  東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ  各地域や学校における外国人児童生徒等教育の現状と推進上の課題について、様々な視点から分析する。	休憩	第4講 講義・演習 「日本語指導の基礎」  奈良教育大学教育連携講座 教授 和泉元 千春  組織的かつ計画的に行う指導について受け入れや指導体制について事例をもとに、理解を深める。また、スペシャルニーズを二つもつ教育・支援についても考える。

【2日目】

	8:45	9:00	10:15	10:30	12:15	13:15	14:15	14:30	15:30	15:45	16:45
10月17日(火)		受付	第5講 講義・演習 「外国人児童生徒等の心理と学習の過程」  宮城教育大学 教授 市瀬 智紀  認知発達と言語習得、母語・母文化、アイデンティティ、外国人児童生徒等の心理と適応について理解を深める。また、実施記録や日本語プログラム、小・中・高の教育・指導の関連・連携化についても学ぶ。	休憩	第6講 講義・演習 「DLAの活用」について  国際教養大学専門職大学院 特任教授 伊東 祐郎 大阪大学大学院 准教授 櫻井 千穂  言語能力測定ツール「DLA」の実施方法と結果の活用について学ぶ。	昼食・休憩	第7講 講義・演習 「年齢的発達と日本語指導」(小学校)  甲府市立大岡小学校 教諭 今澤 倂 横浜市教育委員会 指導主事 横溝 亮  小学校段階でのサバイバル日本語やJSLカリキュラムを通じた指導方法を知り、その理解を深める。	休憩	第8講 講義・演習 「年齢的発達と日本語指導」(中学校)  豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 齋藤 博子 堺市立三原台中学校 日本語指導センター 教諭 浦 久仁子  中学校段階での「日本語基礎」プログラムや技能別日本語の指導方法を知り、その理解を深める。	休憩	第9講 講義・演習 「年齢的発達と日本語指導」(高等学校) 特別な教育課程の実施に向けて  東京都立町田高等学校(定時制課程) 主任教諭 角田 仁 神奈川県立座間総合高等学校 教諭 佐屋 麻利子  社会参画への支援やその方法、文化やアイデンティティの多元性を価値づけることの重要性について理解する。

【3日目】

	8:45	9:00	12:30	13:30	14:30	14:45	17:00
10月18日(水)		受付	休憩	バス移動	昼食・休憩	休憩	休憩
		第10講 実践校視察・協議 「日本語指導の方法と授業づくり」 ※ a～eコースの中から各自選択したコースで学ぶ。  【aコース】小学校① 甲府市立大岡小学校 教諭 今澤 倂  【bコース】小学校② 横浜市教育委員会 指導主事 横溝 亮  【cコース】中学校 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 堺市立三原台中学校 日本語指導センター 教諭 浦 久仁子  【dコース】高等学校 神奈川県立座間総合高等学校 教諭 佐屋 麻利子 三重大学 准教授 服部 明子  【eコース】初期適応支援教室 大阪市教育委員会指導部 人権・国際理解教育グループ プレクラスコーディネーター 山崎 一人 福岡市立百道中学校 指導教諭 福岡市日本語サポートセンター コーディネーター 原田 徳子  三重県内において先進的な実践をしている学校等を視察し、地域の実態に応じた日本語指導の方法や外国人児童生徒等への支援の仕組み等について学ぶ。		第11講 「講義・演習」 ※持参した事前課題について交流・検討  【小学校】 日本語指導の方法と授業づくりについて  甲府市立大岡小学校 教諭 今澤 倂 横浜市教育委員会 指導主事 横溝 亮  【中学校】 日本語指導の方法と授業づくりについて  京都市教育委員会指導部学校指導課 副主任指導主事 大曾 佐紀子 堺市立三原台中学校 日本語指導センター 教諭 浦 久仁子  【高等学校】 日本語指導の方法と授業づくりについて  東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 神奈川県立座間総合高等学校 教諭 佐屋 麻利子  【管理職】 外国人児童生徒等の指導・支援体制における課題解決策の検討について  大阪市教育委員会指導部 人権・国際理解教育グループ プレクラスコーディネーター 山崎 一人 福岡市立百道中学校 指導教諭 福岡市日本語サポートセンター コーディネーター 原田 徳子			

【4日目】

	8:45	9:00	10:00	10:15	11:45	13:00	14:30	14:45
10月19日(木)		受付	休憩	昼食・休憩	閉講式			
		第11講 「講義・演習」 ※前日からの続き  【小学校】 甲府市立大岡小学校 教諭 今澤 倂 横浜市教育委員会指導主事 横溝 亮  【中学校】 堺市立三原台中学校 日本語指導センター 教諭 浦 久仁子  【高等学校】 神奈川県立座間総合高等学校 教諭 佐屋 麻利子  【管理職】 福岡市日本語サポートセンター コーディネーター 原田 徳子 大阪市教育委員会指導部 人権・国際理解教育グループ プレクラスコーディネーター 山崎 一人		第12講 講義・演習 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」  京都教育大学 教授 浜田 麻里 上越教育大学 准教授 原 瑞穂  ・各プログラムで検討・作成した学習計画等について、全体発表やディスカッションを通して理解を深める。 ・自身の現場での取組に、改善の方向性や方法を具体化する。		第13講 講義・演習 「研修成果の活用に向けて～研修プランの作成～」  京都教育大学 教授 浜田 麻里 上越教育大学 准教授 原 瑞穂  研修成果を活用して各自の組織での実施を想定した研修プランを作成することを通じて、本研修で学んだことを振り返るとともに、外国人児童生徒等への教育を推進するリーダーとしての自覚を深める。		

※日程等については変更することがあります。

令和5年度 外国人児童生徒等への日本語指導指導者養成研修  
受講者への連絡事項

### 1 集合日時・受付場所について

- (1) 集合日時 令和5年10月16日(月) 9:15 から受付を開始します。  
(受付時に各種提出物等がありますので、10:00 からの開講式までに余裕を持ってお越しください。)
- (2) 受付場所 三重県総合教育センター 多目的ホール前  
※一般研修講座入口からお入りください。

### 2 使用システムについて

本研修は、以下のシステムを使用します。各システムのマニュアルは、当機構 Web ページからダウンロードし、必ず一読のうえ、受講いただくようお願いします。

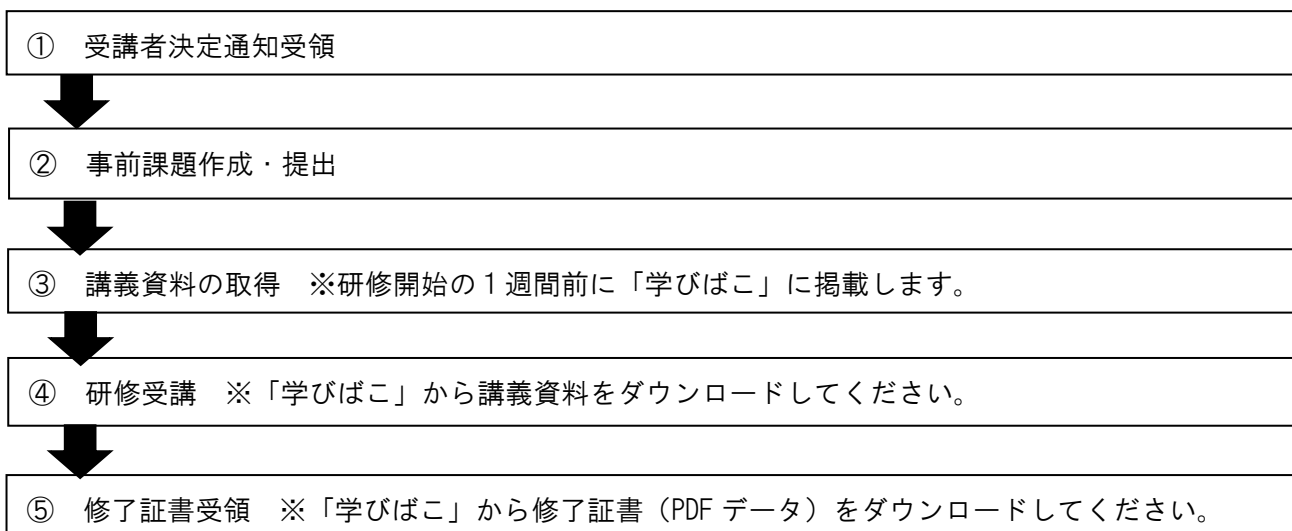
- ◆「学びばこ」：講義資料等のダウンロード、研修に関するアンケートに回答するために使用します。

※「学びばこ」へのログイン・上記システムのマニュアル

(<https://www.nits.go.jp/training/relevantdata/elearning.html>)

- ◆当機構 Web ページ TOP > 研修・セミナー > NITS オンライン研修 受講用ページ

### 3 研修受講の流れ



### 4 事前課題について

【資料3】参照。

事前課題の様式の取得方法・ダウンロードの説明についても記載してあります。

## 5 研修受講に係る事前調査等について（健康状況に関する調査、緊急連絡先の登録等）

【資料4】を参照のうえ、期日までに回答してください。

## 6 携行品について

研修に必要なもの

①文房具類等（第10講では、クリップボード等があると便利です。）

②上履き（研修会場にスリッパは準備していません。）

③事前課題（【資料3】を参照）

※三重県総合教育センターでは、キャリーケース等の大型荷物を置く場所を準備しています。

## 7 講義資料、活用許諾等について

### （1）講義資料

研修開始の1週間前に電子データを「学びばこ」に掲載します。

各自印刷またはパソコン等にデータをダウンロードして持参してください。

### （2）講義資料の著作権と活用許諾について

資料活用の許諾の有無、範囲は、各講義資料の表紙に明示します。

### （3）講義の録音、撮影について

著作権および肖像権の都合上、講義の録音・撮影は禁止します。

なお、研修中は、教職員支援機構の事務局が、記録のために撮影する場合がありますので、あらかじめ御了承ください。

## 8 修了証書受領について

修了証書は「学びばこ」から受領します。

## 9 緊急時の連絡について

### （1）事務局から受講者への連絡

緊急時の連絡（自然災害等により研修開始が遅れる場合等）がある場合は、「学びばこ」ログイン後のページ上部に「お知らせ」として掲示します。また、受講推薦時に登録されたメールアドレス宛てに配信します。

### （2）受講者から事務局への連絡

やむを得ず遅刻、欠席等の事態が生じた際は、次頁の【事前課題等の問合せ先】に連絡するとともに、推薦者（各都道府県教育委員会等）にも連絡するようお願いいたします。

【問合せ先】

三重県教育委員会事務局研修企画・支援課（三重県総合教育センター）TEL059-226-3731

※原則として、研修期間中の受講者への取り次ぎはできません。

## 10 公共交通機関の利用について

三重県総合教育センターの駐車場は、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関を利用してください。（【資料5-1】、【資料5-2】を参照。なお、時刻等は改正になることがありますので、事前に各交通機関のホームページで確認してください。）

## 11 その他

## (1) 氏名等の確認について

『学びばこ』受講者用IDについて【資料7】に記載されている氏名、情報等を必ず確認してください。誤り・訂正がある場合は、下記問合せ先に9月29日(金)までにお知らせください。なお、メールアドレスが未登録の場合や誤りがある場合、「学びばこ」で登録・変更を行ってください。(「学びばこ」利用マニュアル2. 参照)

## (2) メールを受信設定について

迷惑メールのフィルタリング等の設定を行っている場合は、「@ml(ml).nits.go.jp」および「@nits.go.jp」のドメインからのメールを受信できるように設定してください。

## (3) 服装について

研修にふさわしい服装で受講してください。クールビズ期間の指定はないため、上着・ネクタイの着用は自由としています。

## (4) 追加の連絡について

追加の連絡等がある場合は、学びばこログイン後のページ上部に「お知らせ」として掲示します。ログイン時、「お知らせ」欄を確認いただくようお願いいたします。

## (5) 教材等の展示について

研修期間中、研修講師や三重県国際交流財団(MIEF)の教材展示を行います。展示室には、受講者の自作教材等を展示することもできますので、自作教材がある場合は、ぜひ持参してください。(自作教材の展示については、昼休憩時に第7講義室で受け付けます。)

## 12 各種提出物等一覧

提出物など		締切	詳細	提出先
1	事前課題の提出	資料3を参照。		
2	・健康状況に関する調査 ・緊急連絡先の登録	10月10日(火) ※Googleフォーム	資料4	三重県教育委員会事務局
3	第10講(実践校視察)、 第11講(講義・演習)の 希望コース	9月25日(月) ※Googleフォーム	資料4	三重県教育委員会事務局
4	昼食弁当の注文	9月25日(月) ※Googleフォーム	資料4	三重県教育委員会事務局

## 【健康状況に関する調査、各講コース希望等の問合せ先】

三重県教育委員会事務局 研修企画・支援課 担当 樋口、中田、森川  
〒514-0007 三重県津市大谷町12番地  
TEL: 059-226-3731, 3428, 3759 FAX: 059-226-3706  
E-mail: kenshien@pref.mie.lg.jp

## 【事前課題等の問合せ先】

独立行政法人教職員支援機構 担当 坂上、荻原  
〒305-0802 茨城県つくば市立原3  
TEL: 029-879-6994, 6638 FAX: 029-879-6645  
E-mail: kk2@ml.nits.go.jp

## 事前課題等について

## ＜課題等一覧＞

取組時期		課題内容	取組・提出方法等	提出期限
研修前	1	事前課題「研修成果活用計画書」 (課題様式1)作成 (【資料3】p.2)	・推薦者の指定する方法により推薦者に提出	推薦者の指定した 期日
	2	事前課題「外国人児童生徒等の 受入れ体制の概要」(課題様式2 -1・2-2)作成 (【資料3】p.2)	・自分の該当する校種のものを作成 ・ <u>指導主事については、どちらかの様式を選んで作成。</u>  【データ】 ・受講者が「学びばこ」上で提出  【印刷物】 ・ <u>6部印刷して研修当日(第2講)持参する</u>	令和5年 10月2日  令和5年 10月16日
	3	事前課題「第6講 DLAの活用」 資料の閲読、動画視聴 (【資料3】p.2)	・DLA本冊を事前に読む ・動画を事前に視聴する	提出の必要なし
	4	事前課題「第11講に係る資料」 作成 (【資料3】p.2~6)	・自分の該当するコースの課題に取り組む。使用する課題様式や印刷部数はp.2以降を参照。 ・ <u>指導主事については、第11講のコースが決定次第、作成してください。コースの選択、決定については【資料4】を参照。</u>  【データ】 ・受講者が「学びばこ」上で提出  【印刷物】 ・ <u>1日目受付時に各1部提出</u> ・ <u>指定された部数を印刷して研修当日(第11講)持参する</u>	令和5年 10月11日  令和5年 10月16日 18日
研修期間中 ～終了後	5	アンケートの記入	・各講義のアンケート及び研修全体に関わるアンケートに回答する ※回答方法は研修中に案内します	研修中に案内
研修終了から約1年後	6	研修成果の活用に関する調査の回答	・研修成果の活用内容、方法に関する調査に回答する ※提出の受付開始は令和6年11月の予定です。当機構のWebページにて受付の予定です。回答方法は研修期間中にお知らせします。	令和7年 1月

### 1 事前課題「研修成果活用計画書」（課題様式1）について

研修成果を各学校や地域で活用することを前提として作成してください。推薦者の指定した期日までに、推薦者へ提出ください。

様式(Wordファイル)は、決定通知にも添付していますが、教職員支援機構 Web ページ( <https://www.nits.go.jp/training/102/006.html> )からダウンロードすることも可能です。

※HP 上に掲載している様式にはパスワードをかけています。パスワードは「学びばこ」でお知らせします。

(TOP ページ>研修・セミナー>外国人児童生徒等への日本語指導指導者養成研修>ページ下部「ダウンロードデータ」)

### 2 事前課題「外国人児童生徒等の受入れ体制の概要」（課題様式2-1・2-2）について

第2講「本研修の目的」で活用します。課題様式2-1もしくは2-2から、自分の該当する校種のものを選び、A4・1枚以内（両面）で作成してください。指導主事については、どちらかの様式を選んで作成してください。

令和5年10月2日（月）までに受講者自身が「学びばこ」上で提出してください。提出方法については「学びばこ」利用マニュアル6. を参照してください。提出されたものについては、参考資料として学びばこに掲載しますので、ご活用ください。

また、6部印刷して研修当日（第2講）に持参してください。

### 3 事前課題「第6講 DLA の活用」について

第6講では、DLA の理念の講義と「はじめの一步」「話す」「読む」の評価演習を行います。

DLA の基礎的な内容を理解していることを前提としていますので、DLA 本冊を文部科学省のHP（以下のリンク）よりダウンロードし、事前に読んでおいてください。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm)



また、以下の動画を事前視聴してきてください。

「DLA」〈使い方映像マニュアル〉 【01 概要】【02 はじめの一步】【03 話す】【05 読む】

（発行：東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター（現・多言語多文化共生センター））

※【YouTube】による配信。（以下のリンクより）

<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/dla.html>



### 4 事前課題「第11講に係る資料」について

第11講は、校種別のコースに分かれて演習を行います。演習では、事前課題の発表・検討・修正を行います。各コースとも事前に課題に取り組み、その成果物を以下のように提出していただきます。

#### 【研修当日前】

令和5年10月11日（水）までに受講者自身が「学びばこ」上で提出してください。提出方法については「学びばこ」利用マニュアル6. を参照してください。

#### 【研修時】

○1日目の受付時に、作成した課題を印刷したものを1部ご提出ください。

○3日目第11講に、指定枚数（p.3以降参照）を印刷してご持参ください。グループ内配付します。

#### ※個人情報の保護について

実際の児童生徒を想定した指導計画等を用意する場合は、必ず個人が特定されない形に加工してください。持参にあたっては所属長の許可を必ず得てください。また、指導計画には受講番号のみ記載し、受講者名を書かないようにしてください。研修中も紛失等がないよう、細心の注意を払って管理をしてください。



## (1) 小学校コース

下に示す課題を作成し、持参してください。

## ① 課題①「個別の指導計画」\*10部持参

指導している児童1名について、「個別の指導計画」を立てます。既に作成している場合はそれを持参してください。「個別の指導計画」の様式がない場合、文部科学省の以下のサイトより、個別の指導計画の書式をダウンロードして作成してください。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm)



なお、直接日本語指導をしていない場合は、児童を想定して計画を立ててください。また、課題②も、その児童への学習指導計画として設計してください。

## ② 課題②「学習指導案」\*20部持参

課題①「個別の指導計画」の児童を対象に、次のA、Bいずれかの「学習指導案」を作成してください。

## A サバイバル日本語の学習指導案 【課題様式3-1】

次の二つの学習項目（場面・タスク）から一つを選び、記入例を参考に、学習指導案を作成してください。

- 場面・タスク： ①「給食・給食当番」（健康・安全、学校生活）  
②「遠足・社会」（学校生活）

## B 内容（教科）と日本語の統合学習（「JSLカリキュラム」）の学習指導案 【課題様式3-2】

次の二つの教科・単元から一つを選び、記入例を参考に、学習指導案を作成してください。

教科・単元：①小学校2年 生活科 生活科あたらしいせいかつか(上)

「たのしいあきいっぱい」（東京書籍）『こうえんであきをさがそう』の小単元の3時間目

②小学校5年 社会科 「自然条件と人々のくらし」（教育出版）

※学年・内容が同じであれば、どこの教科書会社の単元でもかまいません。

## (2) 中学校コース

下に示す課題を作成し、持参してください。

## ① 課題①「個別の指導計画」\*10部持参

指導している生徒1名について、「個別の指導計画」を立てます。既に作成している場合はそれを持参してください。「個別の指導計画」の様式がない場合、文部科学省の以下のサイトより、個別の指導計画の書式をダウンロードして作成してください。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm)



なお、直接日本語指導をしていない場合は、生徒を想定して計画を立ててください。また、課題②も、その生徒への学習指導計画として設計してください。

## ② 課題②「学習指導案」\*20部持参

課題①「個別の指導計画」の生徒を対象に、次のA、Bいずれかの「学習指導案」を作成してください。

## A 日本語基礎（文型）の学習指導案 【課題様式3-1】

次の三つの学習項目（文型）から一つを選び、記入例を参考に、学習指導案を作成してください。

- 文型 ・～から・・・まで。 ※起点・終点の表現  
 ・～（する・なる）と・・・ ※条件の表現  
 ・～に・・・れる／られる ※受け身の表現

## B 技能別日本語 【課題様式3-1】

次の二つの学習項目（技能）から一つを選び、記入例を参考に、学習指導案を作成してください。

- 技能 ・職場体験等の事前学習で、職場や施設などのウェブサイトやパンフレットなどを「読む」  
 ・高校入試の面接や小論文に向けて「書く」

## (3) 高等学校コース

下に示す課題を作成し、持参してください。

## ① 課題①「年間指導計画」\*10部持参 【課題様式3-3】

生徒1名の「年間指導計画」を立てます。既に作成している場合はそれをご持参ください。生徒の学年、出身地域・国、滞日歴等と日本語の力等、指導計画については、年間目標と「日本語指導」「教科の取り出し指導」「キャリア教育・多文化教育等のその他の活動」に分けて記入してください。様式と記入例をご参考ください。 ※記入様式有

なお、直接日本語指導をしていない場合は、生徒を1名想定して計画を立ててください。また、課題②も、その生徒への学習指導計画として設計してください。

## ② 課題②「学習指導案」\*20部持参

課題①「年間指導計画」の生徒を対象に、次のA、Bいずれかの「学習指導案」を作成してください。

## A 日本語基礎【課題様式3-1】

次の二つの学習項目（表現・機能）から一つを選び、記入例を参考に、学習指導案を作成してください。

表現・機能：ア 助言する 「～したらどうですか」「～したほうがいいと思いますよ」「～したら？」

イ 意志を伝える 「～しようと思います」「～するつもりです」

## B プロジェクト活動「仕事のための日本語」【課題様式3-1】

次の三つの学習項目（プロジェクト活動）から、一つを選び、記入例を参考に、学習指導案を作成してください。

プロジェクト活動：ア アルバイトを探す

イ 10年後の自分を描く（居住地・仕事・家族・趣味・仲間）

ウ 職種とその職種で求められる技能について調べる

(4) 管理職コース 事前課題

下に示す課題を作成し、持参してください。

① 課題① 地域の外国人児童生徒等の状況と課題を整理する。\*10部持参 【課題様式4】

学校管理職の方は、校区を中心に、また、指導主事の方は、管轄の市区町村、都道府県について外国人住民の居住状況、社会的・歴史的背景、外国につながるこどもの人数を含めた就学状況、文化的背景についてまとめてください。また、地域、学校としての受入れ体制や支援・指導体制の特徴についてもまとめてください。

② 課題② それぞれの立場に応じて、手立てを構想する。\*20部持参 【課題様式4】

自身が携わる地域内や学校の実態を踏まえ、多文化共生教育、外国人児童生徒への日本語指導に組織的に取り組むための具体的な研修や情報共有のアイデア及びネットワークを形成するための手立てを構想してください。

## 事前調査等について

## &lt;調査等一覧&gt;

各調査等について、Google フォームから期日までに回答してください。

No.	内容	システム	回答期限	頁
I	健康状況に関する調査 緊急連絡先の登録	Google フォーム  推薦担当者からの 配布資料を参照。	10月10日 (火)	1
	URL : 推薦担当者からの配布資料を参照。			
II	【全ての受講者が回答】 第10講(実践校視察)の希望コース  【教育委員会の指導主事等のみ回答】 第11講(講義・演習)の希望コース	Google フォーム  推薦担当者からの 配布資料を参照。	9月25日 (月)	1
	URL : 推薦担当者からの配布資料を参照。			
III	昼食弁当の注文	Google フォーム  推薦担当者からの 配布資料を参照。	9月25日 (月)	2
	URL : 推薦担当者からの配布資料を参照。			

※ URLをクリックしてもGoogle フォームが開かない場合は、URLをコピーし、インターネットのアドレスバーに貼り付けてください。

**I 健康状況に関する調査、緊急連絡先の登録**

本データは、研修期間中の危機管理用として使用するものです。必要事項を記入してください。研修終了後は速やかに破棄し、個人情報については使用目的以外の使用はいたしません。

**II 第10講(実践校視察)、第11講(講義・演習)の希望コース**

## 1 第10講(実践先進校視察)について

次頁の5つのコースに分かれて、フィールドワークを行います。希望するコースを第1希望～第5希望まで記入してください。

## (1) aコース(津市立高茶屋小学校)

津市では、日本語指導が必要な児童生徒が一斉授業の中で授業内容を理解するための指導方法や工夫について、ICT機器の効果的な活用も含めた授業研究を進めています。津市内小学校での学習活動の様子から、一斉授業及び取り出し授業における日本語指導の実践について学びます。

【集合場所(出発時刻)】近鉄・JR津駅東口(8:15)

## (2) bコース(松阪市立第二小学校)

松阪市のセンター校<sup>\*</sup>としての、初期適応支援教室「いっぽ」との連携のあり方を学ぶとともに、国際教室での学習活動の様子から、取り出し授業における日本語指導の実践について学びます。(※松阪市「外国人児童生徒受入促進事業」において、外国人児童生徒の在籍が多い学校をセンター校として指定)

【集合場所(出発時刻)】近鉄・JR松阪駅北口(8:15)

## (3) cコース(津市立東橋内中学校)

津市では、日本語指導が必要な児童生徒が一斉授業の中で授業内容を理解するための指導方法や工夫について、ICT機器の効果的な活用も含めた授業研究を進めています。津市内中学校での学習活動の様子から、一斉授業における日本語指導の実践について学びます。

【集合場所(出発時刻)】近鉄・JR津駅東口(8:25)

## (4) dコース(県立飯野高等学校)

県立飯野高等学校は、外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜などを実施している外国人生徒教育の拠点高等学校です。また、英語コミュニケーション科では、外国人生徒が全体の半数以上を占めており、多様な国籍、背景、日本語能力に対応するための学習支援体制を構築しています。日本語教育におけるこれまでの成果、実践から、JSLカリキュラムを活用した指導方法等について学びます。

【集合場所(出発時刻)】近鉄白子駅東口(8:15)

## (5) eコース(初期適応支援教室「いっぽ」)

松阪市では、市内の小中学校に在籍している外国人児童生徒を対象に、初歩的な日本語学習や日本の学校生活への適応支援を行う初期適応支援教室「いっぽ」を開設しています。「いっぽ」での通級児童生徒の実態、学習活動の様子から、初期指導の具体的なポイントを学びます。

【集合場所(出発時刻)】近鉄・JR松阪駅北口(8:20)

## 2 第11講(講義・演習)について

校種別の4つのコースに分かれて、講義・演習を行います。

教育委員会の指導主事等の方のみ希望するコースを第1希望～第4希望まで記入してください。(第10講で希望した校種と異なっても構いません。)

※小・中・高等学校に在籍されている管理職の方は、管理職コースに振り分けさせていただきます。

※コース分け名簿については、9月28日をめどに学びばこに掲載します。

## (1) 小学校、中学校、高等学校コース

事前課題「個別の指導計画(年間指導計画)」、「学習指導案」について、グループで発表・検討を行い、自身の取組の改善につなげます。

## (2) 管理職コース

事前課題に基づき、外国人児童生徒等の指導・支援体制における課題解決策について、グループで検討を行い、自身の取組の改善につなげます。

※ 上記1、2のいずれにおいても、第1希望に添えない場合がありますので、御了承ください。

### Ⅲ 昼食弁当の注文

昼食弁当の注文の有無を回答してください。

なお、アレルギー等への対応はできません。

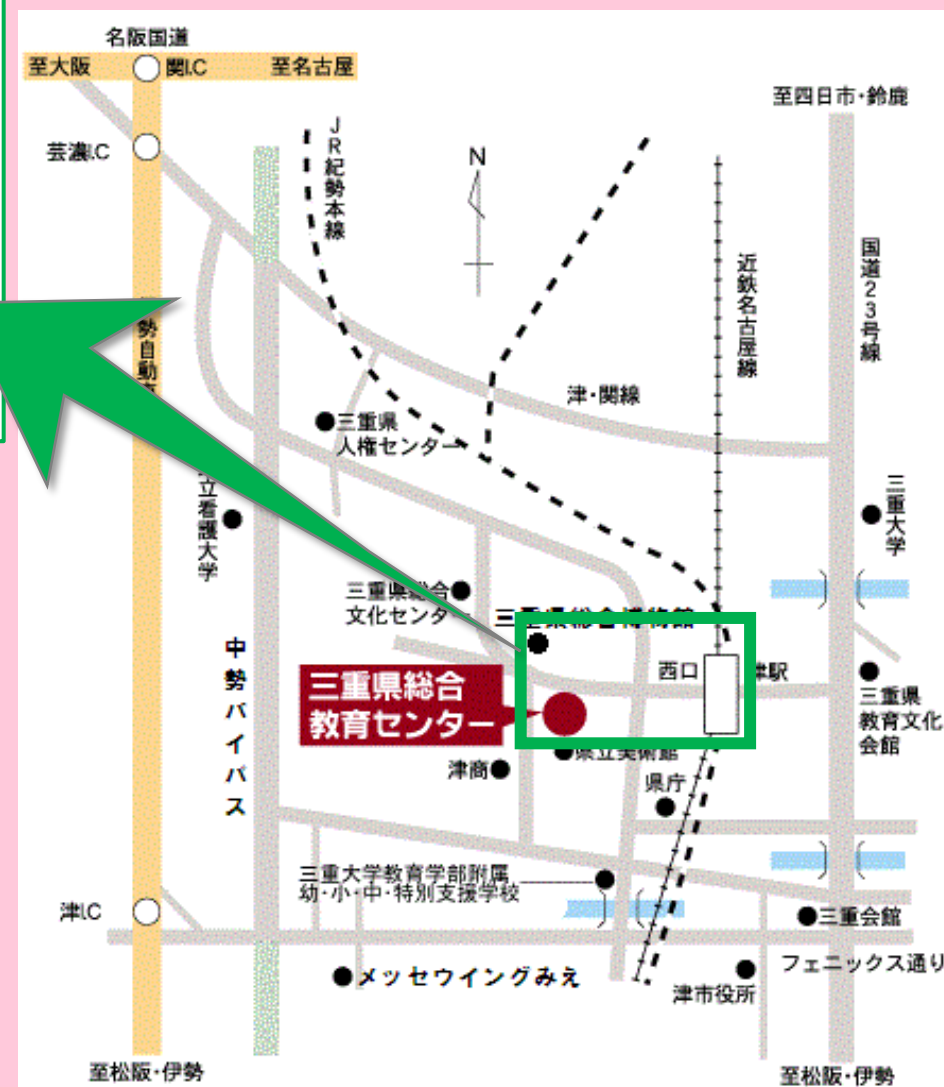
研修初日に、受付にて全日分の弁当代（2,000円）をお支払ください。おつりのないよう用意してください。原則として申込後のキャンセルはできません。

※三重県総合教育センターに食堂はありません。また、近隣の飲食店等も少ないです。

# 三重県総合教育センターへのアクセス案内

〒514-0007 津市大谷町 12 番地

Tel 059-226-3731, 3428, 3759 Fax 059-226-3706

<http://www.mpec.jp/>

## ① 公共交通機関

- ・ JR 東海・近畿日本鉄道 津駅西口から約 800m (徒歩約 15 分)
- ・ 三重交通バス「津駅西口」1 番乗り場から  
「西団地循環」「総合文化センター」「夢が丘団地」「津西ハイタウン」の  
いずれかに乗車約 3 分、「美術館前」下車 (【別紙 5-2】参照)

## ② 自家用車

- ・ 伊勢自動車道津 I.C より約 5 km (約 15 分)

### 【公共交通機関 HP アドレス】

- ・ 近畿日本鉄道 [//www.kintetsu.co.jp/](http://www.kintetsu.co.jp/)
- ・ 三重交通バス [//www.sanco.co.jp/](http://www.sanco.co.jp/)
- ・ JR 東海 [//jr-central.co.jp/](http://jr-central.co.jp/)



## 三重交通バス時刻表

【津駅西口 ⇄ 美術館前】（料金：230円） ※バスで約3分

## 津駅西口 → 美術館前（行き）

行き先	経由	7時	8時	9時
西団地循環	むつみヶ丘・つつじヶ丘	15 30 45	0 35	47
	つつじヶ丘・むつみヶ丘			22
総合文化センター				24
夢が丘団地	総合文化センター前		8 46	45
	上浜町六丁目	26		
津西 ハイタウン	むつみヶ丘・つつじヶ丘			13
	東団地	12 32 56	19	

## 美術館前 → 津駅西口（帰り）

行き先	14時	15時	16時	17時	18時
津駅西口	2	2	2	2	2
	11	14	7	11	20
	14	37	37	14	33
	37	38		38	36
	38			53	38
				54	53
津新町駅 （津駅西口・武 内病院経由）			14		

メールマガジン



# NITSニュース

## 01

### 教育動向 を知る

大学教授等によるコラムを掲載中

## 02

### 動画 で学ぶ

校内研修でも活用できる！

「校内研修シリーズ」「実践力向上シリーズ」等をご紹介

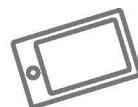
## 03

### NITSの今 がわかる

NITS大賞や調査研究等、最新情報をお届け！



登録方法のご案内



HPにアクセス

スマホをかざして



下記のURLからでも！

登録フォームへ

新規登録方法より

▶ 「NITSニュース」  
登録フォーム

ページ中部にあります！

情報の入力

- メールアドレス
- パスワード
- お名前

など

登録

独立行政法人教職員支援機構

メールマガジン「NITSニュース」

【URL】 <https://www.nits.go.jp/service/magazine/>

